

アナログプレイヤーの比較試聴(2)

ーモーツアルトを聴く(2)ー

1. 始めに

前報(1)に引き続き、アナログプレイヤー3機種の比較試聴を実施していきます。

2. アナログプレイヤーの比較試聴方法

アナログプレイヤー3機種の試聴経路は前報(1)と同様です。

音源は、モーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回も弦楽四重奏です。

Eurodisc(日本コロンビア) OP-7057-K

モーツアルト 弦楽四重奏曲第16番変ホ長調

弦楽四重奏曲第17番変ロ長調「狩」

ベルリン弦楽四重奏団

3. アナログプレイヤーの比較試聴結果

今回はモーツアルトの後期の弦楽四重奏曲です。

ZANDEN Model120 経由の LINN LP-12 と Grrad401 では、Eurodisc 盤ということで、TELDEC、逆相、第4時定数 Mid で聴いていきます。

ThorenTD124 の再生では、ウォームで艶のある弦の音が特徴です。

LINN LP-12 の再生では、ディテールの再現と歯切れの良さが伺え、弦楽四重奏らしい緊張感と躍動感が感じられます。

Grrad401 の再生では、ThorenTD124 と LINN LP-12 の中間のような印象で、ちょっとどっちつかずの感じですが。

4. まとめ

3機種3様の再生パフォーマンスが確認できましたが、すべてこれまでになかったレベルです。ThorenTD124 と LINN LP-12 はそれぞれの特徴を活かした印象です。

以上